

坊やすなが「市政ニュース」



平成26年定例市会（6月議会）一般質問

戦後教育の弊害からみる教員に対する生徒の尊敬度について

Q 坊やすなが議員（平成26年6月26日）

**教師を尊敬する中学生は2割
自分をダメだと思ふ高校生は6割強の現実**

戦後教育の弊害が指摘されて久しい。戦後教育の民主化のもとに行われてきた教育改革は多くの弊害を生んできました。権利ばかりが主張され義務について教えることを怠ってきました。ある公民の教科書には権利が32ページにわたり記述されている一方、義務については5行しか記載されていないということもありました。

また人権の定義すらままならぬまま、その権利の大切さを教える教育はもはや教育ではなく甘やかしとも言えると思います。その結果自分勝手な国民が増加し、公の大切さよりも個人を大切にすぎる行き過ぎた個人主義が尊重される現代社会を形成する端緒となったと言えます。また教育者たる教員が絶対的存在である聖職者であることを自ら否定し、教師は労働者であることを標榜した教師の倫理綱領を決定した日本教職員組合が生んだ多くの弊害も無視する訳にはいきません。教師の倫理綱領にはその他の項目に「教師は正しい政治を守る」「教師は団結する」などといった、彼らの定める倫理綱領として10項目が標榜されていますが、その目的を果たすため児童、生徒を放り出してストを行ったり、生徒に自習をさせて政治活動を行ったりと、生徒や父兄からの信頼を自ら損なう行動をとっていることは将来に大きな禍根を残すという旨を記述した著作物を目にしたこともあります。

この間起きてきた教育現場の課題は、70年代は知識詰め込み型の弊害、過度な受験競争、80年代は小・中学校のいじめ、不登校の頻発、都市化・核家族化を背景とした家庭教育力の低下、今世紀に入るとこれらの問題に加えて学級崩壊や行き過ぎた平等主義による教育の画一化といったように変遷してきました。

これらの課題に適切に対処することができなかったことは、教育行政、教員の責任に他なりません。一例を挙げれば、個を尊重することをキーワードに導入されたゆとり教育は詰め込み教育からの脱却を果たしたのではなく、子供たちの学ぶ機会を奪い、公立学校への不信

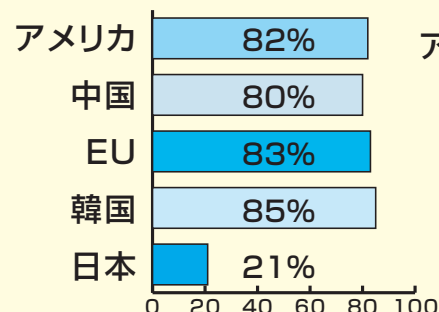


を強め、放課後や休日は塾通いに奔走させられる事となり、ひいては大きな教育格差を生んだことも反省しなければならないと考えます。

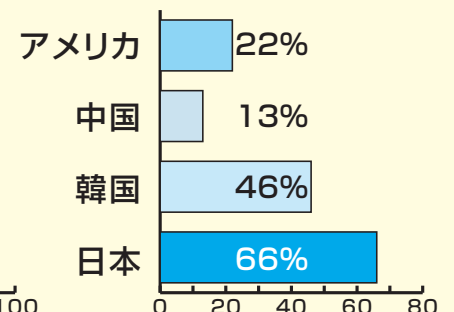
このように国家の基本というべき教育政策が長年にわたり多くの弊害を生み続け、またそれを解決できぬまま更に弊害が増え続けている現状は看過することができない状況になっています。特に学級崩壊や子供たちの学力低下、更には小・中学校のいじめと不登校の頻発といった問題は、教員の指導力の不足、つまり教員の質の低下が大きな原因となっていることは否めません。

政府はこれら戦後教育の弊害を解消すべく第1次安倍内閣において教育基本法の改正を行い、それに基づいて様々な政策展開を行っておりますが、基本的な部分つまり学校教育の一方の主人公である教員の質の向上については目立った成果を生んでいるとは言えません。そのような現状の中、戦後教育の弊害から生じたさまざまな問題に対処すべき教育行政、教員の責任は全く果たされていない現状を、子供たちが厳しく評価していると言わざるを得ない調査結果を新聞記事で目にいたしました。その内容は近年に行われたOECDや世界諸機関による子供に関する各種調査資料を見ると驚愕の事実につき当たります。

世界の中学生を対象とした調査
「先生を尊敬しますか？」



世界の高校生を対象とした調査
「自分はダメな人間だ思う？」



世界10カ国の中学生を対象とした調査で、先生を尊敬しますかという質問に対する答えでは、アメリカ82%、中国80%、EU平均83%、韓国85%といずれも高得点の中で、日本は最下位、それも大差で離された21%しかありませんでした。

これは、別の同様の調査データでも世界186カ国の平均が72%と出ており、50%に達しない国は国家的な危機にある場合にしか出ない数字だそうですから日本はおかしいどころか危ないといしか言いようがありません。

さらに、高校生を対象にした調査では、自分はダメだと思っている学生がアメリカでは22%、中国では13%に対し日本は何と66%、この数値には大いなる危惧の念を禁じ得ません。教育委員長にお尋ねしますが、日本の将来を担う子供たちの8割が教員を尊敬できないと言っていることについてどのように考えるか御見解をお伺いいたします。

A 教育委員長

今の時代に子供たちから信頼を勝ち得ようと思ったらなかなか難しい状況である

数字としては非常に低く感じます。私も教員としてたくさんの子供たちと接触をしてきましたが、その経験からすればもっと高い数字があってもいいのではないかなと思います。

学校の教員に対する尊敬というのはすぐに発生するものではなく、4月に子供たちと先生が会って、夏を過ぎてそれから秋があって、その間にいろんな取り組みがあってそれで3月に別れていく、そういう長期間の中で子供たちが先生と触れ合った中身、内容、それから先生から受けた影響、子供自身が考えたこと、

そうということが相まって先生に対して好きだとか、或は信頼、或はこの先生の授業を受けたい、そういうことが重なって尊敬というよう言葉になってくるかと思いますが、そういう面から言えばもう少し数字が高くても不思議ではないかなと思います。しかし子供たちの信頼ということを経今の時代に子供たちから勝ち得ようと思ったらなかなか難しい状況であると感じます。親御さんとの関係もあり、それから子供自身の友達との関係もあります。そういうことも考えてみると単純に数字で表されていないという感じです。

この無責任な答弁内容をどのように感じられましたか？
これが学校教育に責任を持つ教育委員長の答弁であり、概ね国内の教育委員会の平均的な姿勢だと思います。

なぜ教育委員会改革をしないと我が国の将来が危ういといわれているかご理解頂けたかと思ひます。今後同じ思いを持つ仲間と共に教育委員会改革に全力で取り組んで参ります。

教育委員会改革に全力で取り組みます！



子供の学力向上策と教員の質向上策について

Q 坊やすなが議員 (平成26年6月26日)

神戸っ子チャレンジ10の徹底こそ戦後教育の弊害を解消する!!



児童・生徒の規則正しい生活習慣の定着や学力の向上を図るため、神戸っ子チャレンジ10に取り組まれています、定着に向けた取り組みは学校任せとなっており不十分であると考えています。まずチャレンジ10におけるこれまでのデータから、規則正しい生活習慣の定着が学力の定着に繋がる事が明確になっております。この結果を全ての教員に理解させた上で具体的な目標数字を設定し小・中9年間を通じて生活習慣がどのように改善をしていったのかを数値で評価し、項目絞り込みを徹底するなどチャレンジ10を重要な教育施策と位置づけ政策的にその定着を図るべきと考えます。またこのチャレンジ10をそれぞれの学校で徹底する状況をつくる事により教師の指導力の評価ができると考えます。これまで教員を評価するシステムが十分機能していないと感じております。それはいろんな関連で難しかったのでしよう。しかしこのチャレンジ10を進める上で数値目標を決めて進めることで、教師を数字で評価できる環境ができると考えます。教師の指導力不足つまり学級経営ができない教師が増えているとの指摘がありますがこのチャレンジ10を進める事ではっきりと評価でき、教師の質向上に大きく寄与すると考えますが、ご見解を伺います。

A 教育長

チャレンジ10を推進する中で、学力の定着につながることは明確になってきました。

規則正しい生活習慣の定着は、確かな学力の育成の点から大変重要であると考えており神戸っ子チャレンジ10を推進しております。またチャレンジ10を推進する中で各項目の定着状況が学力の定着につながることは明確になってきました。例えば、朝食の摂取、また学校の決まりを守る、宿題に取り組んでいると答える生徒は学力の正答率が非常に高いとの相関関係を示しています。これは生活の規則正しさや規範意識と学力との関連性が示されているものだと考えます。

教師の評価制度としては表彰制度がありますが、チャレンジ10を行う上で比較的客観的なデータによって評価する事が可能となりますので教員に対する指導・育成について活用していきたいと思ひます。

神戸っ子チャレンジ10 (10の区分)

1. 朝食生活習慣	6. やる気運動
2. あいさつ手伝い	7. 家庭学習
3. 学校生活	8. 家族との会話
4. 読書習慣	9. けじめのある生活
5. 思いやり粘り強さ	10. 規範意識

着実に進行中!



子供たちに規範意識や正しい生活習慣を身につけさせようと秋田県で始まった政策を神戸市でも取り入れるよう提案し、数年間教育委員会と議論を行って始めました「神戸っ子チャレンジ10」ですが、子供たちの学力向上にも寄与する事が明確になり嬉しく思っております。更に数値目標を掲げることで教員の指導力評価の基準にもなると考えます。教育再生のため更に働きかけて参ります。